

## 成田空港に初めて SAF が導入されます！ ～CO<sub>2</sub> 排出量削減による SDGs への貢献を目指して～

成田空港において、全日本空輸株式会社（ANA）により、初めて Sustainable Aviation Fuel（SAF、これまでバイオジェット燃料と呼ばれていた）※1 が導入されることになりました。従来のジェット燃料と同様に、SAF が航空燃料パイプラインにより輸送されることは、国内空港初の取り組みとなります。

気候変動への対応は航空業界全体での取り組みが求められています。航空機の運航にかかる CO<sub>2</sub> 排出量は成田空港全体の排出量の約 7 割を占めており、SAF の導入は、空港としての CO<sub>2</sub> 排出量削減に大きな効果が期待されます。

成田空港では、エコ・エアポート基本計画に基づき、積極的に CO<sub>2</sub> 排出量削減に向けた取り組みを実施しています。今後も更なる SAF の導入について検討を進め、NAA グループ中長期経営構想に掲げる SDGs への貢献を進めていきます。



<写真：ANA 様ご提供>

### <今後の予定>

- ・千葉港頭石油ターミナルに SAF 到着 10月28日  
（受入れた SAF をタンクで静置後、航空燃料パイプラインによる輸送実施。）
- ・成田空港において ANA のフライトへ搭載（10月28日以降）

### イメージ図

千葉港頭石油ターミナル

成田空港石油ターミナル

航空燃料パイプライン(約47km)



導入される SAF は、海外から輸入されるもので、当社千葉港頭石油ターミナルに到着後、約 47km の航空燃料パイプラインにより成田空港まで輸送され航空機に搭載されます。

**NAA 成田国際空港株式会社**

〒282-8601 千葉県成田市成田国際空港内 NAA ビル  
URL : <https://www.narita-airport.jp/jp/>

---

※ 1 動植物油脂や廃食油等の持続可能な原料により製造された燃料を従来のジェット燃料に混合したもの。従来のジェット燃料と同等の性質と規格認証されていて、CO<sub>2</sub> 排出量の削減効果がある燃料。

※ 2 SDGsとは Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略で、2015年9月に国連サミットで採択された持続的な国際社会共通の目標。SAFの利用は、SDGsの17の開発目標の1つである「7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに」及び「13 気候変動に具体的な対策を」に位置付けられる。



## 再生可能エネルギー大手 NESTE と中長期的な SAF の調達に関する覚書を締結

- ・アジアにおける NESTE のパートナーとして、2023 年以降 NESTE がシンガポールにて生産する SAF を ANA が調達します。
- ・2020 年 10 月に NESTE から商業規模の SAF を調達、本邦航空会社として初めて日本発の定期便にて使用します。

## NESTE

ANA は、フィンランドに本社を置く世界有数の Sustainable Aviation Fuel(以下、SAF)の製造会社である NESTE と SAF の調達に関する中長期的な戦略的提携についての覚書を締結しました。本覚書に基づき、2023 年以降 NESTE がシンガポール製油所にて商業生産する SAF<sup>※1</sup>を ANA が調達し、日本発の定期便にて使用していく予定です。

これに先立ち、2020 年 10 月に商業規模の SAF を NESTE より調達し、輸入・品質管理・空港への搬入に至るまでのサプライチェーンを NESTE・伊藤忠商事と共同で構築しました。今般調達した数量は、東京—ロンドン間をボーイング 777-300ER 型機で運航した場合、片道換算で約 60 便に相当し、国際的な第三者認証機関である ISCC によるライフサイクル評価<sup>※2</sup>にて、日本までの輸送を含め、既存のジェット燃料使用時に比べて約 90%の CO2 削減効果が証明されています。今回調達した SAF は 10 月 24 日以降の羽田・成田発の定期便にて使用いたします。日本発の定期便における SAF の使用は本邦航空会社として初の取り組みです。

NESTE が製造する SAF は、廃食油・動植物油脂等を原料としています。航空機・エンジンメーカーの定めるジェット燃料の国際規格である ASTM D1655<sup>※3</sup>ならびに DEF STAN 91-091<sup>※4</sup>を満たしており、既存ジェット燃料と同じ安全性が担保されています。

ANA では、2050 年までに航空機の運航で発生する CO2 排出量を、2005 年比で 50%削減することを目標に掲げ、様々な取り組み<sup>※5</sup>を実施しています。SAF を安定的に供給できる会社が限られている中、今後 SAF を持続的かつ安定的にアジア域内から調達できることは、ESG に関する中長期的な目標を設定し、取り組みを進めている ANA にとって大きな前進となります。ANA はこれからも環境リーディングエアラインとして、CO2 削減をはじめとした環境問題の解決に積極的に取り組んでまいります。



※1 現在年間の SAF の生産量が年間約 10 万トンである NESTE は、今後シンガポールとロッテルダムの製油所の生産能力を増強し、2023 年までに年間約 150 万トンの SAF を生産する予定です。

※2 製品に関し、原材料の収集から製造、輸送、使用など全ての段階を通して環境影響を定量的、客観的に評価する手法。

※3 世界最大規模の標準化団体である ASTM International の定める工業規格であり、D1655 は航空用ジェット燃料に関する規格。

※4 英国国防省(Ministry of Defence)の定める英国防衛規格であり、91-091 は航空用ジェット燃料に関する規格。

※5 省燃費機材や改良型エンジンの導入、運航方法の工夫やエンジン洗浄等によるオペレーションの改善、排出権取引制度の活用など。